

## 2 社会・地歴・公民科

### (1) 社会・地歴・公民科における言語活動の充実の視点

#### ア 社会・地歴・公民科における「言語活動の充実」のとらえ方

社会・地歴・公民科における「自ら考え判断し、表現できる力」とは、各種の資料の中から、課題を解決するために必要な資料を選択して有効に活用することで社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断したことを適切に表現できる力のことであり、それらは、関連し合いスパイラルに育成されていくものである。

これまでの社会・地歴・公民科においても、各種の資料に基づいて社会的事象を考察したり、観察や調査などを通して追究した過程や結果を整理し、まとめたりするなどの学習活動を行ってきた。したがって、その成果の積み上げを基に、これまでの社会・地歴・公民科の指導を振り返り、言語活動の視点を明確にして系統的、計画的に取り組むことが大切である。

そこで、新学習指導要領の改善の基本方針を踏まえ、社会・地歴・公民科における言語活動を「読み取り」、「解釈」、「説明」、「論述」の四つの視点からとらえ、問題解決的な学習の指導計画に位置付けて取り組むことで、言語活動の充実が図られ、「自ら考え判断し、表現できる力」の育成につながると考えた。

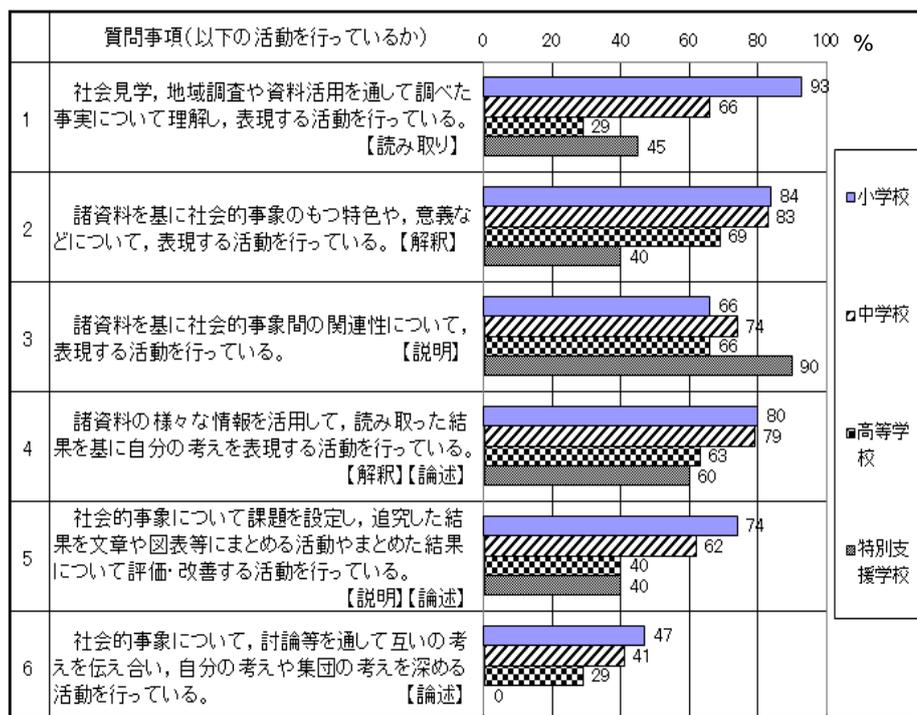
#### 四つの視点でとらえた言語活動

「読み取り」	社会的事象に関する事実を調査見学や地図、統計など各種の資料等を基に読み取る活動
「解釈」	社会的事象のもつ特色や意味、意義について各種の資料等を基に考察する活動
「説明」	社会的事象間の関連を各種の資料等を基に考察し、表現する活動
「論述」	社会的事象について自分なりの考えを各種の資料等を根拠に表現する活動

#### イ 本県における社会・地歴・公民科の言語活動の現状

言語活動の取組に関する調査の結果（図8）から、「読み取り」、「解釈」といった言語活動に比べ、「説明」、「論述」の視点に基づく言語活動が不十分であることが分かる。

したがって、「説明」や「論述」の視点に基づく言語活動を一層充実することが大切である。



（「とともあてはまる」、「ややあてはまる」の合計）

図8 言語活動の取組に関する調査結果

(2) 言語活動の充実を図る学習指導の工夫

ア 長期的視点に立った言語活動の充実

「自ら考え判断し、表現できる力」を育成していくためには、長期的な視点から、各校種間の系統性を踏まえて指導することが重要である。その際、単元における育てたい力（「自ら考え判断し、表現できる力」）を明らかにし、言語活動の四つの視点を踏まえた言語活動を充実させることが大切である。

そこで、育てたい力と充実させたい言語活動例を明記した指導内容系統表を作成した(表6)。

表6 「気候」に関する学習の指導内容系統表

		小学校	中学校	高等学校
指導内容	学習指導要領の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の国土の自然などの様子について、地図その他の資料を活用して調べ・・・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境から見た日本の地域的特色と世界的視野から見て、日本は環太平洋造山帯に属し大地の動きが活発であること、温帯の島国、山国で降水量が多いこと・・・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の地形、気候、植生などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を・・・</li> </ul>
	押さえておきたい基礎的・基本的な知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道以外では5月から7月にかけて梅雨の時期となり、曇りや雨の日が続く。</li> <li>夏は、<u>気温や湿度が高いので蒸し暑い。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏前に、<u>日本列島に前線が停滞し梅雨になる。</u></li> <li>梅雨が明けると太平洋からの季節風(モンスーン)が吹き込んで夏になり、<u>蒸し暑い。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初夏にはオホーツク海気団と小笠原気団との間にできた梅雨前線帯が日本列島付近に停滞し、北海道を除き梅雨となる。</li> <li>夏には高温多湿な小笠原気団が北上して・・・<u>熱帯なみの蒸し暑さとなる。</u></li> </ul>
充実させたい言語活動例		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の南北の気候の特色や気候と人々の生活や産業との関連についてまとめ、説明する。<b>【説明】</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では、気候において地域差が見られることを諸資料を基に読み取るとともに、なぜ、そうした気候の違いがみられるのか、その理由についてまとめ、説明する。<b>【読み取り】【説明】</b></li> <li>諸資料を基に、世界の気候の特色と比較し、日本の気候の特色について自分の考えを述べる。<b>【論述】</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケッペンの気候区分等の諸資料を基に、世界の気候の特色についてまとめ、発表する。<b>【解釈】</b></li> <li>諸資料を基に、気候が人々の生活等へ及ぼす影響について、その理由を説明する。<b>【説明】</b></li> </ul>
育力	自ら考え、判断し、表現できる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国は南と北とでは気候に大きな違いがあり、人々の暮らし方にも違いが見られるといったことについて多面的に考察することができる。</li> <li>我が国の南と北の気候の特色に関する各種の基礎的資料を活用して調べ、気候の特色や人々の暮らし方について違いが見られることを分かりやすく表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的視野から見た日本の気候の特色について多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>世界の気候の特色や日本の気候の特色などに関する様々な資料を収集し、適切に選択・活用して調べ、世界的視野から見た日本の気候の特色について分かりやすく表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の気候の特色について、気温と降水量の分布や地球規模でみた海流に焦点をあて、多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>世界や日本の気候の特色に関する様々な資料を収集し、適切に選択・活用して調べ、大気の大循環やモンスーンの特徴、ケッペンの気候区分や気候景観の特色等について分かりやすく表現することができる。</li> </ul>

( ~~~~~ 小・中・高いずれにも出てくる重要事項)

イ 指導計画における言語活動の充実

「自ら考え判断し、表現できる力」を育成するためには、1単位時間だけでなく、単元全体を通して、社会・地歴・公民科における四つの言語活動の視点を踏まえながら計画的に取り組むことが大切である。そこで、単元全体を通した指導計画例として、ジグソーメソッド(児童生徒がジグソーグループと課題別グループの二つのグループに所属し、それぞれのグループ内での交流を通して課題等を解決する学習方法)を取り入れた例を示す(表7)。

表7 ジグソーメソッドを取り入れた単元の指導計画例

過程	主な活動内容	形態	指導上の留意点 ～ 充実させたい言語活動～	言語活動の 視点
つかむ	1 学習問題を立てる。	一斉	1 諸資料を読み取り、問題意識をもたせる。	【読み取り】
	2 学習問題に対する予想を立てる。		2 既習の知識、概念や技能を基に予想させる。 ＜ジグソーグループを編成する。＞	
	3 学習問題を解決するための追究の柱を立てる。	J G	3 学習問題の解決に迫るような追究の柱を考えさせる。	【説明】
調べる	4 追究の柱について調べる。	K G	4 調べ方等を話し合わせた後、一人調べをさせ、調べたことを基に分析・考察し自分の考えを深めさせる。 ＜課題別グループを編成する。＞	【読み取り】 【解釈】
	5 追究した結果について説明する。		5 課題別グループ内で説明及び評価をさせる。	
まとめる・広げる	6 追究したことをまとめる。	K G	6 説明内容を評価を基に改善し、課題別グループでまとめる。	【解釈】 【説明】 【解釈】
	7 学習問題の解決を図る。		7 課題別グループでまとめたことを基に、各ジグソーグループで討論等をさせ、学習問題の解決を図らせる。	
	8 学習問題に対する自分の考えをまとめる。	一斉	8 討論等を基に自分の考えをまとめさせる。	
9 単元のまとめをする。				

( J G : ジグソーグループ K G : 課題別グループ )

このような手法を用いることで、一人一人の児童生徒の主体的な言語活動を展開していくことができるとともに、各学習過程で充実させたい言語活動を意識して指導することができる。

ウ 授業における言語活動の充実

これまでの社会・地歴・公民科においても、言語活動の充実を図る取組は行われてきたが、より一層充実させるために、本県の現状（図8）等を踏まえ、言語活動の四つの視点を基にした学習指導の改善に取り組んだ（表8）。中でも、「説明」では、社会的事象を比較することで明らかになった特色や因果関係などから考察したことを表現させたり、「論述」では、自分なりの考えを未来予測や価値判断の観点から表現させたりすることに重点を置くなど学習活動の工夫・改善を図った。

表8 学習指導の改善例

言語活動の視点	充実させるための工夫		主な実践例
読み取り	資料活用	・ 疑問を感じたり、課題を発見できる資料を提示する。 ・ 資料の見方（資料の輪郭、内容、内容分析）を学習させる。	【導入の工夫】 p 20
	表現 発問	・ 読み取りの視点を示したワークシートを工夫し、表現させる。 ・ 「どのようなことが読み取れますか。」	
解釈	資料活用	・ 自分の考えの根拠となる事実を見付けさせる。 ・ 社会的事象のもつ意味や意義を記述させるワークシートを工夫し、表現させる。	【情報の整理と分析】 p 19 p 21
	表現 発問	・ 「どのようなことが考えられますか。」	
説明	資料活用	・ 課題解決のための根拠となる資料を収集・選択させる。 ・ 社会的事象の特色や関連などについて、思考を深めさせたり、視点を変えさせたりできるような資料を提示する。	【社会的事象間の関連】 p 19 p 20 p 21
	表現 発問	・ 社会的事象の特色を他の事象と比較し、考察したことを表現させる。 ・ 社会的事象の関連について、因果関係や目的と手段の関係などから考察したことを表現させる。 ・ データからグラフを作成させ、関係を確認させる。 ・ 「なぜこのようになっていると思いますか。」	
論述	資料活用	・ 社会的事象に関する自分の考えを表現するための根拠になるような資料を収集・選択させる。また、活用した資料は適切であったか、活用の仕方は効果的であったかなど次への生かし方を考えさせる。	【未来予測や価値判断】 p 19 p 20 p 21
	表現 発問	・ 社会的事象に関する自分の考えについて諸資料等を根拠に表現させる。（単元の学習のまとめや価値判断を求める学習等で行わせる。） ・ 「このことについてどのように考えますか。」	

(3) 言語活動の充実を図る学習指導の実践例

ア 小学校における実践例

(ア) 主題名 「新しい時代の幕開け」(第6学年)

(イ) 本時の目標(7/8)

- ・ 明治政府が行った諸改革と目的を結び付けて考え、それが社会や人々の暮らしにどのような影響を与えたかを考え、適切に表現することができる。【思考・判断・表現】
- ・ 明治時代と江戸時代との様子を比較して、何がどのように変化し、それが社会のしくみや人々の考え方とどのような関係があるのかを読み取ったり、まとめたりすることができる。【資料活用の技能】

(ウ) 言語活動の充実の視点

「読み取り」	… それぞれの追究の柱について調べたことをまとめた「全体表」を基に、社会のしくみや人々の生活の様子が大きく変化したことを読み取らせ、そこから本時の学習課題を考えさせる。
「解釈」	… ジグソーグループで話し合う活動を通して、課題別グループで調べたそれぞれの追究の柱(社会や生活の変化)の意味や意義について、考えさせる。
「説明」	… ジグソーグループで話し合ったことを基に、他のグループが調べた追究の柱との関連(因果関係や目的と手段の関係等)について考え、分かったことを「個人カード」に記入させる。
「論述」	… 「全体表」や「ワークシート」を基にして、本時の活動を振り返り、分かったことを自分の言葉でまとめさせる。

(I) 本時の展開

過程	主な学習活動	時間形態	指導上の留意点 言語活動の充実の工夫	資料等
つかむ	1 学習課題を確認する。  明治時代、社会のしくみや人々の生活の様子が大きく変化したのはなぜだろう。	一斉 7分	「個人カード」を集約した「全体表」を基に、学習課題の設定につなげる。 【読み取り】	全体表
調べる	2 課題別グループで調べてきたことをジグソーグループ内で発表し、他の意見を基に自分の考えをまとめ、「個人カード」に記入する。  ・ 日本と欧米の関係を視点として自分の考えをまとめる。  3 これまでの活動や資料をもとに自分なりの考えを「ワークシート」に記入する。	ジグソーグループ  30分  個人	相互に調べてきたことを発表し合うことで、それぞれの社会的な事象の意味や意義について考えさせる。 【解釈】  他の追究の柱と自分の追究の柱との関連に気付かせるために「日本と欧米の関係」という視点を与える。 【説明】  グループ活動によって得られた知識を基に自分の考えをまとめさせる。 【論述】	ワークシート
まとめる	4 本時のまとめをする。 ・ まとめたことを発表する。 5 これまでの活動によって自分の考えがどのように変容したのかを振り返る。 ・ 「個人カード」に記入する。	一斉 8分  個人	自分の考えがどのように変容してきたのか、これまでの「個人カード」を基にまとめさせる。 	個人カード

(オ) 成果と課題

ジグソーメソッドを行うことで、いつもより積極的に授業に参加する児童の割合が多くなった。  
ジグソーメソッドを行うことで自分が調べた追究の柱と他の柱との関連性を考え、自分の考えを深めることができた。また、他の意見を参考にして自分の考えを論述することができた。  
四つの言語活動の視点を単元の指導過程の中にバランスよく配置することが課題である。

イ 中学校における実践例

(ア) 主題名 「第1章 世界と日本の自然 気候は地域によって」(第2学年)

(イ) 本時の目標 (4 / 8)

- ・ 気候は暖流や寒流, 偏西風などの風の影響を受けることを理解することができる。

【知識・理解】

- ・ 気候に違いが出る理由を資料を基に分析・考察し, 説明等の方法で表現することができる。

【思考・判断・表現】

(ウ) 言語活動の充実の視点

「読み取り」...	ロンドンと東京の雨温図を読み取らせ気候の特徴に気づかせる。
「解釈」...	地図帳や雨温図で読み取ったことを基に比較しながら考察させる。
「説明」...	調べたことを根拠に原因と結果の関連で説明させる。
「論述」...	評価を基に改善した自分の考えを発表させる。

(I) 本時の展開

過程	主な学習活動	時間形態	指導上の留意点 言語活動の充実の工夫	資料等
つかむ	1 前時の復習をする。	3分	冬のロンドンの写真からロンドンの気候帯を予想させ, その根拠を考えさせる。 <b>【読み取り】【解釈】【説明】</b> 雨温図をもとにロンドンの気候の特徴をまとめさせ, 温帯であることを確認させる。 <b>【読み取り】【解釈】</b> 北海道より高緯度であることを地図帳を使って確認させる。 なぜ, 高緯度のロンドンは冬でも暖かいのか予想させる。 <b>【解釈】</b>	写真 雨温図 地図帳 ワークシート
	2 写真を見てロンドンの気候帯を予想する。	一斉		
調べる	3 ロンドンと東京の雨温図を比較し, その特徴を発表する。 ・ 冬でも温暖, 年間の降水量が同じ	12分	学習課題の解決のために, 個人で教科書や地図帳等から原因を探らせ, 調べたことを根拠に原因と結果の関連でまとめさせる。 <b>【読み取り】【解釈】</b> 調べたことを基に原因と結果の関連で説明させる。全員の発表が終わった後に, 意見交換の時間を設定し, 相互に評価させる。 <b>【説明】</b> ・ 相互評価を基に見直し, 改善させる。	地図帳 資料集
	4 ロンドンと東京の位置関係(緯度)を確認する。	個人		
まとめ	5 学習課題を立てる。 なぜ, 東京より高緯度にあるロンドンの冬の気温は, 東京とあまり差がないのだろう。	一斉	相互評価を基に改善した自分の考えを発表させる。 <b>【論述】</b> 解説を加えながら, ワークシートに学習課題のまとめをさせる。	ワークシート
	6 地図帳や資料集を基に学習課題の解決に取り組む。 <b>個人</b> ・ 学習課題解決のために一人で原因を調べ, まとめる。 <b>グループ</b> ・ 個人で調べたことをグループで発表し合い, 意見交換をする。 <b>個人</b> ・ 意見交換を基に自分で調べたことを見直し, まとめる。	30分		
まとめ	7 学習課題のまとめをする。 ・ 改善した意見を発表し合い, 全体でまとめる。 西岸では暖流の北大西洋海流が流れていて, 偏西風によって暖かい空気が流れているから。	5分		
	8 次時の学習内容を知る。			

(オ) 成果と課題

結果を個々に予想させたことにより, 主体的に課題を追求する姿が見られた。

グループで相互評価を行わせたことにより, 友達の考えと比較しながら自分の考えを見直す姿が見られた。

相互評価を基に多面的な視点から練り上げていくことに課題が残った。

ウ 高等学校における実践例

(ア) 主題名 「第2章 一体化に向かう世界」(第3学年)

(イ) 本時の目標(8/15)

作成した新聞記事をお互いに考察し、表現させることで、特色ある世界の諸地域が交流を深め、世界が一体化してきていることに気付き、歴史の流れをつかむことができる。【思考・判断・表現】

(ウ) 成果と課題

(ウ) 言語活動の充実の視点

「読み取り」...	自分に興味・関心のある内容を、教科書、図書館の蔵書、インターネット等から収集し、歴史新聞に掲載する記事を決めさせる。(前時)
「解釈」...	発表された新聞記事を分類することで、各自、各グループごとに話し合って考察し、違いを明らかにし、世界史の流れの意味や意義を考えさせる。
「説明」...	4グループの中から2人が歴史新聞を発表する中で、社会的事象の特色について説明させる。
「論述」...	各自、各グループごとに話し合って考察し、解釈したことに対して、自らの考えをまとめ、論述させる。

(I) 本時の展開

過程	主な学習活動	時間形態	指導上の留意点 言語活動の充実の工夫	資料等
課題把握	1 「鉄の伝来」の話聞く。 ・鉄の伝来により生活にどのような変化が起きたのか考える。 2 本時の学習課題を確認する。 歴史新聞を基に、世界の諸地域の交流と世界の一体化について考えよう。	5分 一斉	鉄の伝来が、農業の発展や戦争の激化につながり、宗教や哲学の発生の一因にもなったことに気付かせる。 ・古い時代の記事には、宗教に係わる記事が多い理由を理解させ、テーマが異文化の交流であることに気付きやすいようにする。	ICT
課題の追究	3 指名された生徒が自分の記事を説明する。 4 記事を目次の題名と関連させ、二つに分類し、その違いを考察する。 <前半の記事> ・ヒンドゥー教 ・仏教 ・イスラム教 ・アンコールワット ・スフィンクス ・ピラミッド ・コロッセウム <後半の記事> ・琉球 ・薩摩 ・サツマイモ ・ザビエル ・エカチェリーナ2世 ・アンボイナ事件 	20分 グループ 10分 グループ 10分 個人	事象の特色を説明するだけでなく、分かりにくい語句や地図上の位置も把握できるように説明させる。【説明】 ・「琉球と薩摩」の記事では、「冊封体制」の説明を「ザビエル」の記事では「宗教改革」の説明して補足する。 プリントを準備する。 分類された表の違いを考えさせながら、そこから歴史の流れに気付かせる。【解釈】 ・別表は記事を二つに分類してあり、前半の記事は諸地域世界の特質を述べており、後半の記事は世界が一体化してきている記事となっているところを、気付かせるように助言していく。 歴史の流れをまとめるためにプリントを準備する。【論述】 ・世界の一体化の過程をまとめて書けるように助言する。	ICT プリント ICT
まとめ	6 本時のまとめ ・まとめたことを発表する。	5分 一斉	・世界が一体化する過程に気付かせ、次の「産業革命」とのつながりを意識させる。	プリント

グループごとに活動させることで、一人一人の意見を取り入れることができ、意欲的に取り組む姿が見られた。

知識・理解を深めるために資料を活用し、言語活動を充実させたことにより、異文化の交流を多面的・多角的に考えることができるなど思考力・判断力をはぐくむことができた。

歴史上の事実をまとめることはできたが、自分の考えを踏まえて意見をまとめ発表させることに改善の余地がある。